

## 平和

### 目指す姿（10年後）

- 核兵器の存在を前提としない、新たな安全保障政策に基づく多国間枠組みに、核兵器国を含む全ての国の合意、参加を得て、核兵器廃絶の実現に向けた具体的な道筋が明らかになっています。
- 広島で平和を学んだ将来を担う若い世代が、戦争で傷ついた地域の復興を支える取組に参画するなど、様々な形で平和を希求する活動に持続的に関わることで、世界中に共感の輪が広がり、国際社会に影響を与え、安心して暮らせる平和な世界の実現に貢献しています。
- 賛同者の拡大に伴い、平和に関する人材、知識・情報、資金などの資源が、国内外から、広島へ持続的に集積され、広島が、平和に関する諸課題を解決に導く国際平和拠点として世界中から認知され、平和への期待が集う場所としての役割を発揮しています。

| ビジョン指標            | 当初値       | 現状値                 | 目標値<br>(R7)                 | 目標値<br>(R12)          |
|-------------------|-----------|---------------------|-----------------------------|-----------------------|
| 核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成 | 合意形成方策の検討 | 合意形成に向けた働きかけを実施(R7) | 多国間枠組みを構築することに、国連加盟国の過半数が賛同 | 多国間枠組みに核兵器国を含む全ての国が参加 |

| 主な取組                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと多国間枠組みの形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「核の歴史に関するサマーキャンプ in ひろしま 2025」の開催[R7.8]</li> <li>➢ 「ひろしまラウンドテーブル」の開催[R7.9]</li> <li>➢ 「NPT運用検討会議第3回準備委員会」への参加[R7.4]</li> <li>➢ 「国際平和のためのユース対話イベント」の開催[R7.8]</li> <li>➢ 「ひろしまレポート」の作成[R8.3]</li> </ul> </li> <li>● 平和の取組への賛同者の拡大と世界への働きかけ <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「未来へのおりづるキャンペーン」の実施[R7.8]</li> <li>➢ 「パグウォッシュ会議世界大会」の開催支援[R7.11]</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 広島が有する経験や資源を生かした復興・平和構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「グローバル未来塾 in ひろしま」の実施[R7.7～R8.1]</li> <li>➢ 「広島-ICANアカデミー」の実施[R7.7～10]</li> <li>➢ 「被爆 80 年人材育成特別プログラム」の実施[R7.6～12]</li> </ul> </li> <li>● 持続可能な平和推進メカニズムの構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「2025 ひろしま国際平和&amp;ビジネスフォーラム」の開催 [R7.5]</li> <li>➢ へいわ創造機構ひろしまの法人化 [R7.11]</li> </ul> </li> </ul> |

## ① 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと多国間枠組みの形成

### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 世界的な平和研究機関と連携した核軍縮研究国際ネットワーク会議の研究・議論を深化させ、核抑止に替わる新たな安全保障政策づくりを進めます。
- 核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成を目指し、国連やNPT運用検討会議などの場を通じて、新たな安全保障政策について各国の賛同を得るための働きかけを行います。

| KPI                              |      | R3   | R4   | R5   | R6    | R7    |
|----------------------------------|------|------|------|------|-------|-------|
| 新たな政策に係る記事や論文等がメディアや研究者等から発信された数 | 目標   | 4 本  | 6 本  | 20 本 | 50 本  | 100 本 |
|                                  | 実績   | 12 本 | 27 本 | 84 本 | 188 本 | 78 本  |
|                                  | 達成状況 | 達成   | 達成   | 達成   | 達成    | 未達成   |

### 【評価と課題】

- 被爆・終戦 80 年に当たる令和7年度は、研究論文の公表の遅延等により、新たな政策に係る記事や論文等がメディアや研究者等から発信された数については、目標の達成には至らなかった。
- 一方で、被爆・終戦 80 年イベント「核抑止を乗り越えて」を広島市で開催することで、核抑止に関する問題点や核抑止への依存から脱却していく必要性を、多くの県民に発信するなど、平和に関する様々な取組に触れる機会を提供した。
- 引き続き、核抑止に頼らない安全保障の研究成果を基に、様々な主体と連携して、核抑止に頼らない新たな安全保障政策づくりの働きかけと発信を行うことが必要である。
- また、次期国連目標に核兵器廃絶が位置付けられることを目指して、NPT運用検討会議のサイドイベント等を通じて、科学的な知見を活用しながら核兵器がもたらす影響を発信したほか、参加した各国大使や外交交渉に携わる政府関係者等を集めた「フレンズ会合」の設立に向けた働きかけを行った。
- 引き続き、国際会議等の場において、各国政府へ働きかけを行うとともに、日本政府に対しては、フレンズ会合を主導するよう働きかけを行う必要がある。

【主な事業】・ 国際平和拠点ひろしま構想推進事業……………327 ページ

### 【令和8年度の取組】

- 被爆・終戦 80 年で高まった核兵器廃絶に向けた機運や、パグウォッシュ会議の招致をはじめ、様々な取組を通じて形成されたネットワークを生かして、核抑止に頼らない新たな安全保障政策づくりを一層推進するとともに、国際会議への参加等を通じて、核抑止に頼らない新たな安全保障の在り方についての議論の活性化を図る。

## ② 平和の取組への賛同者の拡大と世界への働きかけ

### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 核兵器問題について活動している世界中のグループやプロジェクトとのネットワーク化に取り組むとともに、世界中の志ある若い世代が、核兵器廃絶に向けた活動の中心を担うことが出来るよう次世代人材を育成します。
- 核兵器のない平和な世界の実現に向け、多様な主体と連携し、核兵器廃絶が国際的な合意となるよう、NPTやポストSDGs等の様々なプロセスにおいて、国際社会への働きかけの強化に取り組めます。

| KPI                            |      | R3   | R4   | R5    | R6    | R7    |
|--------------------------------|------|------|------|-------|-------|-------|
| 国連等で意見表明する資格を有するNGO等と連携した数(累計) | 目標   | 2 団体 | 5 団体 | 10 団体 | 15 団体 | 20 団体 |
|                                | 実績   | 2 団体 | 7 団体 | 12 団体 | 17 団体 | 22 団体 |
|                                | 達成状況 | 達成   | 達成   | 達成    | 達成    | 達成    |

### 【評価と課題】

- 国連等で意見表明する資格を有するNGO等と連携した数については、NPT運用検討会議第3回準備委員会のサイドイベントへの米国軍備管理協会会長の登壇やパグウォッシュ会議の招致、沖縄県の「グローバル・アライアンス「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」(GASPPA)への参加など、NGO等との連携を着実に推進し、目標を達成した。
- また、被爆・終戦 80 年の取組の一環として、大阪・関西万博の広島県ブース『RE:WORLD HIROSHIMA』において、「#未来へのおりづるキャンペーン」の連携企画として「おりづるワークショップ」を実施し、参加者が5日間で 5,000 人を超える結果となり、平和の取組への賛同者を拡大できた。
- 引き続き、核兵器廃絶が国際的な合意となるよう、多様な主体との連携を広げていく必要がある。

【主な事業】・ 国際平和拠点ひろしま構想推進事業……………327 ページ

### 【令和8年度の取組】

- 国連や各国政府への働きかけを強化するため、GASPPA を通じて、多様な主体とのネットワークの強化を図り、国際会議での「核兵器の問題は人類や地球の存続に関わる課題である」という問題提起や賛同者拡大キャンペーン等を実施する。

### ③ 広島が有する経験や資源を生かした復興・平和構築

#### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 国際的な人材育成機関や県内の教育機関と連携し、広島の実験・平和構築の知見を学び紛争終結国や開発途上国の発展に貢献できる人材の育成に取り組みます。
- 被爆者治療の実績や放射線障害に関する調査研究の成果を活かし、国内外の医師を対象とした研修等を実施します。(放射線被爆者医療国際協力推進協議会)

| KPI                                        |      | R3       | R4       | R5       | R6       | R7       |
|--------------------------------------------|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 県が提供するプログラム等により、被爆、復興の歴史や被ばく者医療などについて学んだ人数 | 目標   | 13,000 人 | 14,000 人 | 16,000 人 | 18,000 人 | 20,000 人 |
|                                            | 実績   | 13,199 人 | 14,337 人 | 22,902 人 | 19,947 人 | 22,487 人 |
|                                            | 達成状況 | 達成       | 達成       | 達成       | 達成       | 達成       |

#### 【評価と課題】

- 県が提供するプログラム等により、被爆、復興の歴史や被ばく者医療などについて学んだ人数については、「グローバル未来塾 in ひろしま」や「広島-ICAN アカデミー」等の若者を対象とする人材育成プログラムを着実に実施したほか、核兵器の現状に関する「ひろしまレポート」や広島の被爆からの復興に関する冊子「広島の復興の歩み」等の積極的な配布、平和イベント等への復興に関するパネルの貸出など、より多くの方に平和について学ぶ機会を提供したことにより、目標を達成した。また、参加者アンケートなどから、それぞれの参加者にとって満足度の高い研修を提供できたことを確認できた。
- 今後は、プログラムの修了生が平和に関する活動を継続できるよう、効果的なフォローアップを実施する必要がある。
- 国外で被ばく者医療に従事する医師等を対象にした研修、次世代を担う高校生を対象とした出前講座、国際シンポジウムを行った結果、目標を達成した。

【主な事業】・ 国際平和拠点ひろしま構想推進事業……………327 ページ

#### 【令和8年度の取組】

- 冊子「広島の復興の歩み」の配布やパネルの展示、研修のオンライン学習機会の提供等を通じて、被爆、復興の歴史などについて学ぶ人数の拡大を図る。
- 「グローバル未来塾 in ひろしま」や「広島-ICANアカデミー」を継続的に実施するとともに、SNS等を活用してプログラム修了生が平和に関する活動を継続できるよう、ネットワークの構築と効果的なフォローアップを実施する。
- 核兵器廃絶を中心テーマとした対面研修「ひろしまグローバル・ユースフォーラム」を新たに実施することで、平和のメッセージを世界に発信する、次世代の平和人材の育成を強化する。
- 引き続き、医師等の医療従事者を対象とした研修等を行うことにより、世界各地で活躍する放射線被ばく者医療人材や放射線人材を育成するとともに、県民を対象とした講演会等の開催により被ばく者医療についての理解を深める。

#### ④ 持続可能な平和推進メカニズムの構築

##### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 核兵器廃絶に向けた世界的な行動を推進するため、経済界を始めとした様々な主体が参画するプラットフォームの構築や情報発信機能の充実に取り組みます。
- 平和に関する資源の集積機能や研究機能等を備えたセンター機能確立し、核兵器のない平和な世界の実現に具体的に貢献するための基盤を整備します。

| KPI                                            |      | R3       | R4       | R5       | R6       | R7       |
|------------------------------------------------|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 国際平和拠点ひろしまのウェブサイトの会員数及びSNS等の登録者数やアクション数の月間の平均値 | 目標   | 12,000 件 | 17,000 件 | 22,000 件 | 27,000 件 | 32,000 件 |
|                                                | 実績   | 9,819 件  | 11,784 件 | 17,233 件 | 19,601 件 | —※       |
|                                                | 達成状況 | 未達成      | 未達成      | 未達成      | 未達成      | —※       |
| プラットフォームに参加する企業・団体等の数(累計)                      | 目標   | 50 団体    | 100 団体   | 200 団体   | 500 団体   | 1,000 団体 |
|                                                | 実績   | 1 団体     | 28 団体    | 91 団体    | 121 団体   | —※       |
|                                                | 達成状況 | 未達成      | 未達成      | 未達成      | 未達成      | —※       |

※R7 はウェブサイトを開鎖したことにより計測不可

##### 【評価と課題】

- 節目である被爆・終戦 80 年に当たり、令和7年3月に被爆・終戦 80 年特設サイトを開設し、「第 63 回パグウォッシュ世界大会広島大会」や「核の歴史に関するサマーキャンプ in ひろしま 2025」などのイベントについて、県民等へのイベント参加募集や開催報告等、積極的な情報発信を図った。これらの取組を通じて、被爆地広島を訪れる各界のリーダー等と共に、力強い平和のメッセージを世界に発信し、核兵器廃絶に向けた気運の醸成につなげることができた。
- ビジネスによる平和への貢献の契機とすることを目的に開催した「2025 国際平和 & ビジネスフォーラム」については、当初の想定を超える 2,338 名の参加があった。開会時に国内外のビジネスリーダー等とともに発出した「2025 ひろしま宣言」において、ビジネスによる平和の旗印として参加者の賛同のもと、ESGP(ESG(環境、社会、ガバナンス)に加え、P(平和)に貢献する企業・投資活動)を提唱した。一方で、ESGP の趣旨への賛同を、平和への継続的な関与に結びつけるためには、ESGP の理念をどう浸透させていくかが今後の課題となる。
- 多様な主体が参画するプラットフォームを構築するためには、企業が ESGP に基づき、平和への貢献を可視化しやすい状況を生み出し、様々な形で企業の平和貢献が一般化し、更なる貢献につながる状況を創出していくことが必要である。
- 地元経済界や広島ゆかりの企業へのトップセールスにより、令和8年3月末時点で、広島県・へいわ創造機構ひろしま(HOPe)に累計 10 億円余の寄附を受けた。令和7年 11 月には HOPe を法人化した。更なる資金の獲得に向けて、HOPe 法人化の意義や取組に対する認知・理解の促進を図る必要がある。

【主な事業】・ 国際平和拠点ひろしま構想推進事業……………327 ページ

【令和8年度の取組】

- 企業の平和貢献が一般化し、更なる貢献につながる状況の創出に向け、国連が次期目標を念頭に検討を進める「Beyond GDP」の枠組みに、核兵器廃絶につながる平和に関する概念が位置づけられるよう、企業による平和貢献の拡大策などについて、国内有数の研究者と連携して検討を進める。
- また、多様な主体の参画を促すため、国際平和拠点としての取組に対する認知・理解の促進に向け、経済団体等へのアプローチを積極的に進めるほか、県が関係するイベント等において若者の参画機会の拡大を積極的に図る。